平成29年度 第三回 学校協議会 議事録

日時: 平成30年2月13日(火)

午後7時~8時30分

会場:同窓会館1F

出席者

(協議会委員) 井関 義彦様 岡澤 潤次様 北村 貴則様 田中 栄美子様 (事務局) 准校長 教頭 主査 記録係 中

1. 開会挨拶、准校長挨拶

- インフルエンザ流行 公立校で学級、学校閉鎖も出ている 本校感染者は8名
- 3、4年生の学年末考査終了 現在追認定指導中 卒業へ向けて
- 1、2年生は明後日から期末試験
- 卒業予定者の中には卒業を渋る者も
- 本校で、友達ができて皆勤の生徒も存在。過ごしやすい環境づくりができている

2. 協議

議長: 岡澤様

● 平成29年度 学校経営計画及び学校評価について

森村准校長

めざす学校像 多様な生徒に対して柔軟な対応が可能である学校

中期的目標

- ・確かな学力の育成
- ・生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ
- ・学校・家庭・地域との連携で安全で安心な学校づくり
- ・学校運営の活性化と教職員の資質向上

目標に対する自己評価 生徒向け学校教育自己診断での「わかりやすい授業が多い」を 65%にする→63.8%未達成△

診断テストの正答率 3%UP を達成する→19%UP 達成◎

平成 29 年度資格取得者数を年間延べ人数 100 以上維持する一延 ベ人数 7 2 人 \triangle

平成 29 年度も SSW,SC を含めたケース会議やコア会議を 10 回 以上実施する→ケース会議 2 回コア会議 3 3 回◎

生徒向け学校教育自己診断での「担任以外に相談事をできる先生がいる」を50%へ引き上げる→55%達成○

生徒出身中学校訪問 25 校を維持する→29 校を達成◎

合理的配慮に関する研修を年2回行う→2回実施○

教員向け学校教育自己診断での「教育活動について教員間で日常的に話している」を80%へ引き上げる→82.7%達成○

教員向け学校教育自己診断での「次年度の計画に生かしている」 を70%へ引き上げる→86.2%達成○

質疑応答

森村准校長

全体的に結果は良いが、保護者からのアンケートの返答にはマイナス要素もある。

教員から生徒には伝わっている物が、保護者へは伝わっていない事がある。

保護者向け学校教育自己診断では「子供は授業がわかりやすく楽しいと言っている。」という回答が 58.9%→50.5%〜減少している。

岡澤様

教育方法は時代と共に方法が移り変わりこれまでの常識が通用しない。

紙辞書から電子辞書へ移り代わり、現代ではスマートフォンを用いた教育が始まる。

森村准校長

スマートフォンを活用している授業はすでに存在している。

これからは時代と共存した授業展開が望まれる。

井関様

今年のセンター入試の英語のリスニングが全体的に悪かった。理由は何でしょう?

松山教頭

問題のレベルが高かったためと聞いております。

井関様

高レベルの問題が解けないという事は、日本の英語の教育方法は遅れているのではないか?

岡澤様

遅れています。他の人が英語を喋る事ができるから自分は喋れなくてもいいだろうという意識が、 日本人には根付いています。

英語と日本語はボキャブラリーがとても豊富で論理的思考が育つ。 しかし、英語と双璧をなす表現 法がある日本語を操る日本人は英語の表現力に魅力を感じないため関心が薄い。

中国や韓国の輸入業者は物を売る力はあるが、それを維持・発展する技術がない。

そこの技術を売り込むため、日本人には英語を用いた国際交流力が必要となる。

日本の英語教育は形式に捕らわれすぎている。伝達が最低限できればそれでよい。

森村准校長

工業製品、機械においても年配者は取扱い説明書を読むが、若者は説明書を読まずに実際に触って順応している。形式に捕らわれず、目的を果たす力がある。

岡澤様

世界は仮想通貨など日本より IT システムが社会に溶け込みだしている。

特に、インドの人たちは数学に強くコンピュータエンジニアリングが発達しているため IT の世界でこれから伸びていくと思われます。

● 平成30年度 学校経営計画及び学校評価(案)について

森村准校長

今年度と次年度の違いの説明 中期的目標 変更点 1. 確かな学力の育成

全教科において ICT 機器を用いてわかりやすい授業を展開する。 直感的に理解の可能になる授業を推進 ユニバーサルデザインを取り入れた授業を推進「だれもが使って使いや

ユニハーザルデザインを取り入れた授業を推進したれもか使って使いですい」誰でもわかる視点の授業づくりの推進

3. 学校・家庭・地域の連携と安全と安心な学校づくり 近隣幼稚園の園児、地域の方を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携 を深め、「クリーンキャンペーン」等の取り組みを通じて、地域と共に 歩む学校作りを進める

質疑応答

北村様

藤井寺工科としてはどのような生徒を育成したいのか? 進学、就職のどちらでもない生徒に将来はどうなるのか?

進学、就職率を引き上げるのが学校としての目的なのではないのか?

森村准校長

本校在学生には社会に適応するレベルまで発達していない生徒もいる。

理想は即戦力、スペシャリストの育成であるが会社の即戦力となる人材には程遠いというのが現状。

北村様

進路が決まっていない状態で社会への放出というのは酷ではないか? 3年という時間を生かせばもっとできる事があるのではないか?

森村准校長

本来、定時制は4年制であります。本校では通信教育を取り入れたカリキュラムを用いて文科省が 定める最低時間を3年間でクリアしている。

北村様

現在、もっとも我が社で多い高卒生は藤井寺工科生である。社内において意欲を持ち、コミュニティを築き適応している。最近の生徒の様子はどうでしょう?

森村准校長

学校生活は良くても就職活動が難航している生徒がいる。

縁がたくさんあっても、その職に興味がなく意欲が湧いていない現実がある。

北村様

とても勿体ない現状であると思います。

岡澤様

奈良県王寺工業高校の生徒は、覇気がある。

就職に向けての覇気ではなく普段の人間性としての覇気を育む事に力を入れている。

特にあいさつ指導に力を入れており、在校生は当たり前の様に大きな声であいさつをしていました。 結果として様々な企業から引く手あまたとなる人間性を、作り出せていると思います。

森村准校長

「やるべき事」ではなく「やって当たり前」という環境を作り出した学校例であると思います。あいさつという当たり前のことを当たり前の様にできる人間性の育成の良い例だと思います。

岡澤様

そういう環境が形成できれば理想であると思う。

貴校でも、この環境を形成する事ができればよいでしょうね。

● 校則(生徒心得)の見直しについて

森村准校長

学生として基礎的な事を尊重し、時代に合わせて若干の修正を行った。

質疑応答

岡澤様

次年度から学校協議会へ生徒を参加させて、大人と意見交換させてみるのも意義あること だと思う。

● 授業アンケート(2回目)の結果について

松山教頭

授業アンケートにおいて質問9項目すべてにおいて良い回答の数値が向上していました。

質疑応答

岡澤様

もっと過去3・4年分のデータと照らし合わせての比較を行いたいです。(アンケートには昨年度分のみを記載)

松山教頭

准校長と共に全教員の授業を見学しましたが、どの教員も生徒の理解のために様々工夫を している様に思えました。

岡澤様

教員自身が良いと思った授業は本当に良い授業なのだろうか?

生徒が自己表現、積極的な発言をする場を設けるのは良い事だが、そればかりに捕らわれてしまっては基礎学力が成り立たなくなってしまう。

田中様

この年齢層の子供は家庭に対する興味が薄れ、家族とのコミュニケーションを取らなくなっている子供が多いと思う。そのため教員と保護者との教育への思いに差が出てくる。

北村様

アンケート結果はよかったが、この結果に信憑性があるのか疑問である。

その他

松山教頭

拡大相談委員会について

昨年より本校にSV SC SSW を配置している。

その中で SV から助言をもらい SC を交えた教育相談委員と SSW を交えた中退防止コーディネーターの 2 チームの情報共有を行う拡大相談員会を月 1 回開催する事になった。 多方面からの視点で生徒を支援する体制を整えている。

岡澤様

SC というのは専門的な臨床心理士ですか?

松山教頭

その通りです。SCにおいては生徒の心のケアを主とした役割の専門家の方です。

● 学校運営協議会の設置について

森村准校長

次年度より学校運営協議会の設置が義務付けられました。

大阪府においては既に学校協議会が存在するため、それらを学校運営協議会へ機能移行します。

移行に伴い新たな手続き等が必要となりますがご協力よろしくお願いします。

岡澤様

現在とあまり相違はないですか?

森村准校長

大阪府は学校協議会を推し進めていたため、あまり差異はないです。

田中様

学校協議会はどの学校でも行っている物なのですか?

松山教頭

行っております。大阪府では条例で開催が義務付けられています。

井関様

そもそも、昔は学校協議会という名前では無かったが現在の学校協議会へ変わる際に機能 の変更は無かったのか?

岡澤様

特に大きな変更はありませんでした。

● 閉会の挨拶